# Japaneseman In NY（ニューヨーク生活）

Central Park

## ≪ニューヨークの冬≫

今回はニューヨークの冬の話。

今年 1 月に 20 年振りにマイナス 16 度を記録したというニューヨーク。前回、そのマイナス 16 度を記録した時に正にニューヨークで生活していたのだが、当時の寒さもニュースも正直ほとんど記憶に残っていない…。

というのも、ニューヨークにあるアパートのほとんどがそうだったと思うが、各部屋にはスチームと呼ばれる太いパイプ状の暖房器具が初めから備え付けられていた。ニューヨーク市の条例のようなものかもしれないが、アパートの大家さんにはスチームの設置が義務付けられていると聞いた記憶がある。とにかく、そのスチームのおかげと自分の部屋は僅か 3 畳ほどの広さだったので、日によっては真冬でもシャツ一枚で過ごせるくらい部屋の中がポカポカしている時もあった。そんな訳で、マイナス 16 度を記録した当時はほぼ丸 1 日部屋に籠っていたのかもしれない。

ニューヨークの冬の風物詩として、マンホールの蓋からモクモクと上がる白い煙も有名だ。マンハッタンでは各アパートに設置されているスチームのように、暖房の手段として地下を通るパイプを通じて各建物を暖めるシステムが施されているそうで、1879 年から供給が開始されたそうだ。そのスチームパイプに雨水などが触れて熱され、水蒸気となったものがマンホールから噴き出しているのだそうだ。

真冬にはかなりの雪が降ったり、零下を記録することもそれほど珍しくないニューヨークだが、その中でも大変だったのは、ウェイターの仕事が入っていた時だった。行き帰りの寒さは勿論、外気に触れっぱなしでキンキンに冷えたシャッターの上げ下ろしや、地下の倉庫にある製氷機からドリンク用に使用する氷を運ぶのが結構大変だった。プラスティック製の大きなバケツに氷を満杯に詰めて、そのバケツを両手に 1 個ずつ持って狭い階段を上り下りしながら 2、3 往復するのだが、気を付けないと階段も雪で滑りそうで、なかなかの作業だったのを覚えている。

また、渡米後数年は生活に余裕もなく、履きつぶして所々に切れ目が入ったり、穴が開いてきたブーツを革ジャンの裏地を切り抜いてアロンアルファのような強力接着剤で補強して履き続けていたのだが、雪が降った翌日に晴れたりすると、雪解け水で道路もビシャビシャになり、完全に補強できていないブーツの穴の隙間からその雪解け水が浸入してきて、ブーツの中がジューシーになることもしばしばだったが、今となっては懐かしい思い出だ。

ニューヨークの冬にはいろいろと思い出があるが、とにかくニューヨークの雪景色は綺麗だった。特に雪が降り積もった時のセントラルパークは格別で、ジョン・レノンが住んでいたことで知られるダコタ・ハウスが佇むウェスト 72 丁目の入り口からパーク内に入り、ストロベリー・フィールズを抜けて緩やかな傾斜を下ると大きな池があった。寒さに堪えながらその池の周りにあるベンチに腰をかけて池越しに見る風景は感動的で、美しい風景画のように芸術的だった。

皆さんもニューヨークを訪れる機会があれば、冬のニューヨークもお薦めです。